令和３年度　京田辺市産業振興ビジョン推進委員会　（第１回）会議要旨

１　開会

２　副市長あいさつ

３　委員・出席者紹介

４　委員長・副委員長の選出

５　委員長あいさつ

６　審議事項

（１）　令和元年度、令和２年度のアクションプラン評価結果の報告について

（委員長）令和元年、令和２年度の評価について、いろいろな課題が出てきているが、特にコロナに対応することを後期でどう考えていくのかが一番大きな問題として顕在化してきている。こういった課題を抽出するという意味では参考になる評価だったと考える。

（委員）取組達成度の評価基準をつけているが、その基準がよく分からない。前年との比較で評価が決まっているのか。前年が 2 件のところ今年が 1 件なら B ということなのか。それとも C ということなのか。

（事務局）達成率が原則ではあるが、それだけでは一概に割り切れない部分がある。特にコロナの影響で取組ができていない事業については、特記事項にてフォローできている部分は達成率通りの評価にはなっていない。ABC の達成率はあくまでも目安の一つである。

（委員長）中間報告なので、達成度に関する評価になる。後期になると、単にどれだけ達成したのかということ以外に、どれだけ売上が変動したかわかる指標を作り、政策効果を測れるようにフレームを作って評価するよう進捗状況の管理の中に入れてほしい。
今の評価手法では行政がどう事業を実施したのかといった管理はできるが、政

策そのものが京田辺市にもたらした影響についても評価するべきである。

（２）　アクションプラン（後期）の策定について

（委員長）すでにコロナが進捗状況に大きな影響を与えていることが明白であり、そういった状況を踏まえてデジタル化を進めていくことなど念頭におきながら、前期アクションプランプランの振り返り、後期アクションプラン重点施策の考え方について意見をお願いしたい。産業に大きな影響を与えるデジタル化は、急速に進んでいるわけではないと考える。

（委員）アクションプランについてもすべてそうだが、それぞれ商業、工業、農業、観光別々に計画策定から実施が進んでいると感じる。農業・商業・観光・工業の連携を考えた方策を打ち立てることが重要と感じる。

（委員長）非常に大事な視点である。産業の連携をどのように考えていったら良いのか。特に、農業と観光については重要な意味をもつ。評価検討会議の中でも、地域連携という形で出ていた。
それぞれの地域の特色を生かしながら地域同士が競争するのではなく、お互いが共に創る、「共創」ができればと思う。実現には行政の縦割りがネックにあると思うが連携について行政はどう考えるか。

（事務局）農業と福祉と観光を連携して事業に取り組んでいる。障害を持っている方が農産物を作り、その農産物を作ったランチを提供するような事業を行っている。この取り組みについては分野間の壁は取り払い実施し、評価についても一体的に評価できるよう PDCA を回していきたい。

（委員長）「環境に優しい」「人に優しい」という点で、福祉問題、環境の問題に取り組んでいかなければならないが、企業では取り組みにくい部分もある。基本的に福祉や環境をある程度事業化していく、自分たちでどうするかを考えていくということが必要。

（委員長）後期アクションプランの重点施策として、広域幹線道路の整備に伴う好機の活用を行う。京田辺市は居住地として、居住生活と工業的、産業的発展という中で幹線道路をどのように活用していくかが課題になる。

（事務局）（後期）アクションプランの策定に向けて、市民アンケートを実施する。京田辺市在住の２０歳以上の市民で、２，０００人を無作為に抽出し、対象を決定する。

７　閉会